



# 自分の命をまもる

さあ、夏休み。自由な毎日が待っていますが、大人の目が届かないことも多くあるでしょう。無防備な子供たちは危ないところへ冒険気分で行きかけ、そこで事故にあうことがあります。毎年、小学生の悲しい事故や事件のニュースが増えるのも夏休みです。夏休みの過ごし方について、ご家庭で何回も話し合っていたいただきたいと思います。

## 【ため池のこわざ】★なぜため池に落ちるとおぼれるの？

毎年25人くらいの方が、ため池に落ちて亡くなっています。なぜでしょう。それは構造によるものです。

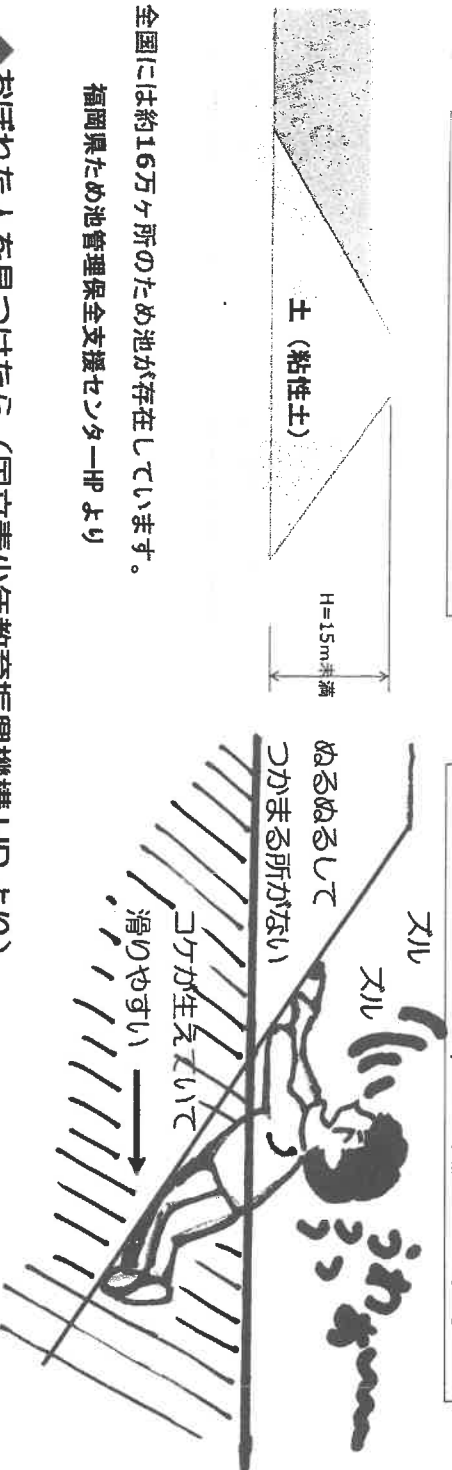
① ため池は、とってもしっかり分かりますが、落ちたら足がつかみません。  
ため池とは、水を大量にためておく池です。普通の池に比べて大量に水をためるため、底が深くなっています。落ちたときに、自分が思っていたよりも深く足がつかずにパニックになります。

② ため池は、すり鉢状になっていることが多い。

のり面は斜面になっていて、そこには藻や水草が生えてツルツルとすべります。上に登ろうとしても、滑って下に落ちてしまいます。泳ぎに自信があっても、これは回避できません。子どもを助けようと思い、飛び込んだ大人が、子どもを抱えたまま滑る斜面を上がることは到底不可能です。

ため池とは、高さ(堤高)15m未満の土えん堤をいいます

ため池でおぼれると、なぜ這い上がれないか



全国には約16万ヶ所のため池が存在しています。

福岡県ため池管理保全支援センターHPより

## ◆おぼれた人を見つけたら (国立青少年教育振興機構 HP より)

- まず助ける側が落ち着くこと。おぼれている人に声をかけ、落ち着かせましょう。
- すぐに飛び込まない。おぼれている人はパニック状態になっているので、引きずられる可能性があります。おぼれた人の救助は、レスキュー隊員でも難しいのです。
- 他に助ける方法がないかを考える。119番通報。人を集めるといろいろな救助法が見えてきます。ロープなどの道具を探す。例えば、空のペットボトルを投げ込むと、それが浮き輪代わりになります。ロープや紐、人同士で手をつなぎ救助する。などが考えられます。

☆☆☆☆一番の対策は、ため池に近づかないこと！！☆☆☆☆